

青森市所会連合会事務局発行

# 葬務局

だより No. 71

56.9

町内婦人のつどい 9/22 於商工会館大ホール

満員盛況裡に終わる

参会者 婦人三八名 市側 市長始め職員十四名 奉例本表

リサイクルの実際 石戸谷忠夫 (中経万三所会長)  
 冠婚葬祭の簡素化 工藤キリエ (南後満婦人)  
 廃バスの利用について 五十嵐千代治 (平和台所会長)  
 葬後後、各題二毎に会員よりの質疑と意見がいろいろでた。行政への要望もあつたが、市長が陣頭に起つて殆ど一人で答辯したので関係部課長少し、手持無沙汰の態。

市長の答辯から

○リサイクルについて 助成には次の三方式がある。

1. 指定業者への奨励金交付
2. 基準価格補償方式
3. 自主回収方式

本年度はとりあえずモデル地区を設定して実施したい。

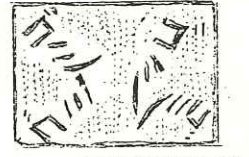
○冠婚葬祭の簡素化について

最近益々エスカレートしている。後潟地区の実際は高く評価したい。市でも以前、貸衣装、貸祭壇などやつたが業者の反対で中止。今後、広報などでPRして協力したい。

○廃バスの利用について

廃バスの無償払下げは、公営企業等の性格上困難であり、但し改修費についてはモデル的に一台三十万円程度に改修費の半額程度の助成を検討中である。現在、公共的団体へは一、二万円、三、四万円程度で払下げている。福祉館への助成は本年度三十万円を見込んでいく。

○一般婦人からの意見としては、冠婚葬祭に関心が深いようである。特にお布施には公定価格がないだけに、お寺、坊主に何となく不信感をもっているようである。お布施を一定にしてほしいと声も出たが、お布施に基準はない。家柄、格式でさめているようだが、とは市長の辯、私の町会では和尚と契約してお布施は、通夜、葬儀、法要、埋葬を含めて坊主一人五万円とさめている。とは、黒田町会長(切島)の辯である。他の坊主は三万円



ごみ収集(一部地区)法の抜本的改正

中部地区の一部商店街の地区では、九月一日より業者がすべてゴミを集めることになり、安方、新町、西川、長島本所の一部、十七所会にわたる区域である。この今日事業所での往來を当然含まれるが、市から業者へ料金は支払われることになる。七月二十八日、関係所会長への説明会がもたれた。新しい試みだけに、その成果が注目される。

弘前市のリサイクル

弘前市では、五十二年度の市政懇談会に市民より提言あり。五十二年度はモデル地区設定(城西団地)五十四年度より全面的実施。総量で一キロ二月の報償金交付。昨年度約八七〇トン回収。市より一七四万二四円の報償金がとれている。紙類は値下りのため、6、7、8月は休み。9、10、11月始め、1、2、3月休みの予定。状態をみて対応する。実施団体一三四団体。回収回数三九三回。

素人の短絡的は思考では、一トンのゴミを処理するには、人件費、油代、車の経費、他いろいろの経費を加えて、一七〇〇〇円はかゝるとされている。リサイクルで一トンゴミが減れば、一トン二千円の報償金を出してもかまりの経費が少くことになる。破産して埋立てるにしても埋立地も有限であり、二十年もつものは三十年もつことになる。然かも、資源は再生されるのである。青森市では昨年の町内婦人のつどいで坪センター所長は、五十五年度は十三町会のリサイクルモデル地区をつくらうと言明。五十六年度の婦人のつどいでは、市長がモデル地区をつくらうと話していた。

梨、木清掃工場見学は 地区連合体で

町内から出発し、町内へ帰着する利便あります。旺日は、木、金、時間九三〇、三三〇、申込めは当会へ。八月中にアンケートをお願いします。協力ください。回答は、オ三回電気料補助受取の際、ご持参ください。